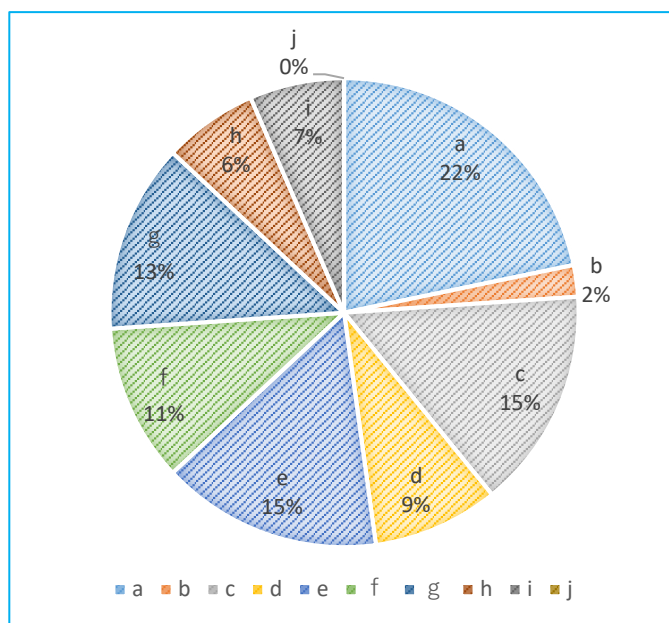


第22回 FDフォーラム
「学修成果の可視化ツールに関するモニタ実施結果の紹介」
「学修成果の可視化の意義とカリキュラムデザイン」
アンケート集計結果 (2022.11.24)

参加者 123名

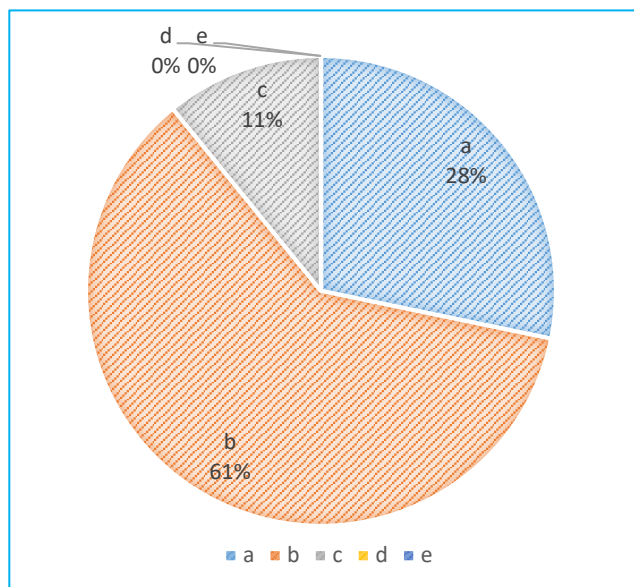
1. 先生の所属を教えてください (必須)



- a.法学部
- b.経済学部
- c.経営学部
- d.現代中国学部
- e.国際コミュニケーション学部
- f.文学部
- g.地域政策学部
- h.短期大学部
- i.事務職員
- j.上記以外

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	計
10	1	7	4	7	5	6	3	3	0	46

2. 講演1 (経済学部から) について



- a.大変良かった (大変参考になった)
- b.良かった (参考になった)
- c.ふつう
- d.あまり良くなかった (あまり参考にならなかった)
- e.良くなかった

a	b	c	d	e	計
13	28	5	0	0	46

●「a.大変良かった（大変参考になった）」と答えた人のコメント

- ◇ 経済学部らしい客観的な数値の分析を伴っていて、今後の利用の可能性を感じました。
- ◇ 自分の所属学部置き換えて、具体的に想像することができた。
- ◇ 国際コミュニケーション学部の結果との比較が興味深かったです。また、おまけ部分の、ランダムに分けられたクラス間に見られた差異の要因が知りたいと思いました。
- ◇ 井口先生の分析はさすがに冷静かつ客観的で、大変参考になりました。
- ◇ 国コミュ学部の成果も交え、比較できたところがありがたかったです。英語プレイズメントテスト得点との相関については、発想が及びませんでした（累積GPAとの相関を出したので）。今度、計算してみたいと思います（おそらく、経済学部と同様に、相関はないものと想像していますが）。
- ◇ 自身の担当業務に直接関わる内容であり、大変勉強になりました。
- ◇ データ分析で客観的情報が得られたから

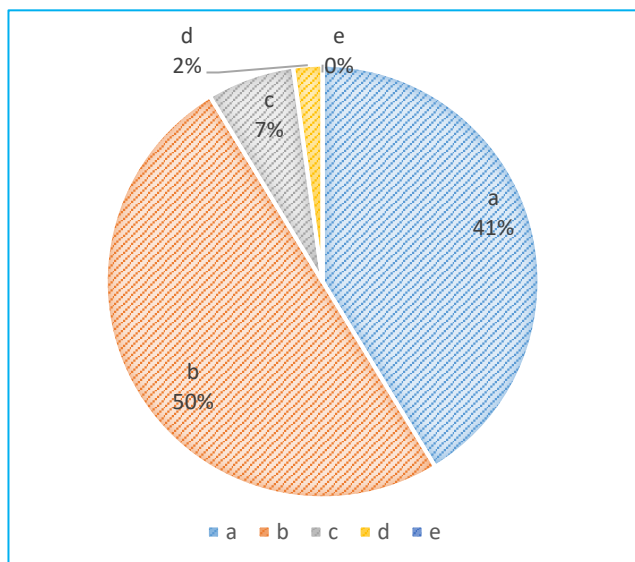
●「b.良かった（参考になった）」と答えた人のコメント

- ◇ 経済学部と他大学群との比較は面白い。
- ◇ 他学部での取り組みが良く分かった。
- ◇ 経済学部の学生の状態を知ることができた。全学的に調査して結果の分析をしてみたい。
- ◇ 具体的な分析内容を聞いたのがよかった。
- ◇ 男女差の分析結果が興味深かった。
- ◇ 1年生を対象にどのように実施したか、また、その結果の分析について参考になりました。
- ◇ 入学してすぐの1年生が対象であるため、継続調査を経なければまだ多くを断じえない点には納得した。
- ◇ 1年次春の実施であったからこそその高い回答率であると思われる。3年次では回答率が大きく下がること予想されるため、実施方法の検討が必要である。

●「c.どちらともいえない」と答えた人のコメント

- ◇ 調査の対象となっている経済学部の学生が、法学部の学生とどのような点で共通し、どのような点で違うのかわからないので、参考になるかどうかすら判断できませんでした。
- ◇ すみません、途中から入室したため、判断することができませんでした。

3. 講演1（九州大学 深堀先生から）について



- a.大変良かった（大変参考になった）
- b.良かった
- c.ふつう
- d.あまり良くなかった（あまり参考にならなかった）
- e.良くなかった

a	b	c	d	e	計
19	23	3	1	0	46

●「a.大変良かった（大変参考になった）」と答えた人のコメント

- ◇ 自分の講義の試験内容をどうするかについて、考えさせられた。
- ◇ 本学でもどのような取り組みを考えなければいけないかの参考になった（ただし、大学の規模が違いすぎるので一概には適用できないが）
- ◇ 九州大学の具体的な取り組みについてはいささか高度過ぎる面がありましたが、考え方については非常に納得のいく話が多かったと思います。
- ◇ 知識が動き始めるための知識として提示され、教学マネジメント構築に早速取り組んでみたくなった。
- ◇ 部局間での均一的な取組は難しいこと、その中でもシステムティックに学びの可視化をされていることを知ることができました。全体を俯瞰で見て、担当するクラスの到達目標などを見直していきたいと思いました。ありがとうございました。
- ◇ 取り組みのご紹介が、具体的かつ論理的で、大変分かりやすかった。
- ◇ 内容が豊富でした
- ◇ とても系統だったお話で、参考になりました。ただ、（九大のような大規模な大学とは比較にならない規模とはいえ）実際に取り入れていこうとすると非常に大きな作業量を覚悟せねばならないことも想定され、前途に不安を覚えました。思いました。
- ◇ 自身の担当業務に直接関わる内容であり、大変勉強になりました。
- ◇ 体系的な取り組みの先進事例を知ることができた。次期カリキュラムの検討にたいへん参考になった。

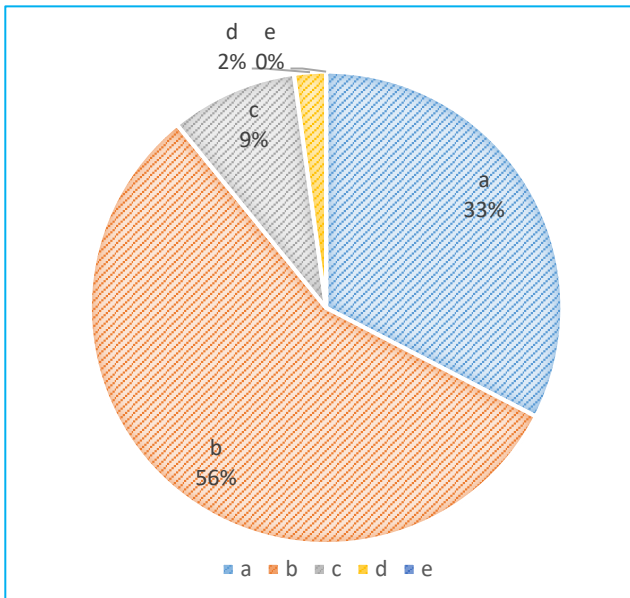
●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ FDの客観性や大学としての制度の重要性について、よく理解することができた。
- ◇ 規模の大きな大学における調査の動向について知れてよかった
- ◇ 他学でどうされているかが聞けたことと、大きな大学で5000人の教職員のうち1000人程度が毎年入れ替わっているという中で取り組みが特に興味深かったです。こういった組織でも構成員の入れ替わりはあるので、それにより崩れないシステムの作り方は考えさせられました。
- ◇ 九州大学の先進的な取り組みに関する知見を得ることができた。
- ◇ 九州大学での全学的な様々な議論を経てようやく作り上げることができたシステムであることが分かりました。
- ◇ システム整備により、個人の教員にわざわざフィードバックしなくとも、システムによる補正が効くという点には「なるほど」と思った。一方で、そうしたシステムを構築できるまでの労力と実現性を思うと、一筋縄では行かないようにも感じられた。

●「d.あまり良くなかった（あまり参考にならなかった）」と答えた人のコメント

- ◇ 九大のように、愛大より明らかに規模が大きく、理系学部が充実している、それも国立大学の事例をもとに話をされても、中規模地方文系大学の愛大にどう応用すればいいのか、わかりませんでした。

4.（全体を通して）今回のテーマの選定はいかがでしたか



- a.大変良かった
- b.良かった
- c.ふつう
- d.あまり良くなかった
- e.良くなかった

a	b	c	d	e	計
15	26	4	1	0	46

●「a.大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 非常にタイムリーな、というか、現在必要となるテーマであった。
- ◇ 各学部が悩むべき問題について、検討の材料を与えて頂いたので大変有意義でした。
- ◇ 本学が、いま取り組まねばならない喫緊の課題だと考えるため。
- ◇ 自身の担当業務に直接関わる内容であり、大変勉強になりました。
- ◇ 各単位で次期カリキュラムの検討に入る前であり、良いタイミングであったと思う。ただし、今回の内容の前提となる考え方（文科省政策、教学マネジメント、学修者本位）を各教職員が深く理解する必要があったため、その啓発を事前にもっと行っていても良かったかもしれない。

●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 学習成果の可視化に興味・関心があったから。
- ◇ 教育を行う上で、ためになったと思う。
- ◇ テーマに対して比較教育・教育社会学からお話いただいたが、教育方法学や教育行政学からの視点でも勉強になるのでは、と思った。
- ◇ 2講演とも面白かったです。
- ◇ 学習成果の可視化に関する多様な取り組みの知見が得られた。
- ◇ DP、CPの改訂については、ちょうど今日の教授会でも上がったトピックだったため、興味深く拝聴した。

●「d.あまり良くなかった」と答えた人のコメント

- ◇ 法学部の教員にはあまり参考にならなかったからです。

5. 今後、どのようなテーマを希望されますか？

- ◇ 教学関連テーマを希望致します
- ◇ 方法論：例えば今回は「コンピテンシーを意識すべき」ということがわかったが、低いという前提で教育に臨むのか？もしくはそれを高める教育を行うべきなのか？またその方法論は？
- ◇ 東北大学加齢医学研究所教授 川島 隆太氏を講師とする「スマホの長時間使用による学力破壊」に関する講演
- ◇ 学生本位の学習、という概念は、分かっているつもりで理解が十分ではないと思われまので、今回のテーマに近いですが、引き続きこのあたりで設定して頂きたいです。
- ◇ 本日のような内容で良いと
- ◇ あまり大上段な理念・理論について何うよりは、身近な教育実践と結びついたらテーマがよいと思う。
- ◇ 学生支援における合理的配慮について
- ◇ 文科省政策、教学マネジメント、学修者本位教育
- ◇ 不登校や発達障害の学生サポート

6. その他お気づきのことがありましたら、ご記入ください。

- ◇ 特になし。
- ◇ 資料のURLはメールやLiveCampusで案内するなど、もう少し見つけやすくして欲しい。
- ◇ 特になし。
- ◇ 教授会不開催の日に設定されると出席が難しくなることもありますので、開催日程の設定はもう一工夫して頂けると大変ありがたいです。
- ◇ 散会のタイミングがきちんと分かる終わり方をしてほしかったです。
- ◇ ありがとうございました。